

長洲さん黄泉に旅立つ（一九九年五月八日）

五月四日の深夜 長洲さんは遠い国へ

一人で旅立っていった

倒れてから一ヶ月 無言のまま 旅立っていった

旅立ちの夜は 激しい雨だったが

旅の途中 ちようど一休みしている頃の 明けがた

雨はやんで 東が赤く染まっていた

二十四年前 長洲さんは 萌える新緑のなか

県庁前広場に集まった1000人を前に

両手を 高々とあげて 戦後初の革新知事として

颯爽と登庁したが

いままた 同じ新緑のなかを 両手をあげて

颯爽と 黄泉（よみ）の国へと 旅立っていった

二十年間 全力投球し 完全燃焼した 長洲さんは

思い残すことが 無かったかのように 死においても

なぜか 颯爽としている

（人生八〇年、人生七掛け説を唱えた長洲さんの享年は、七十九歳だった）